

認知症の人に寄り添う 在宅医療



医療法人 すずらん会

たろうクリニック

TARO CLINIC

内田 直樹

認知症の人に寄り添う

在宅医療



精神科医による新たな取り組み

平原佐斗司 ● 監修

Satoshi Hirahara

東京ふれあい医療生活協同組合
梶原診療所

内田直樹 ● 編著

Naoki Uchida

医療法人すずらん会 たろうクリニック

在宅医療の歴史から現状と可能性を第一線の先生方が語る。「今後増大する認知症および高齢の精神疾患患者を地域でどう支えていくか」という命題と毎日向き合う在宅医の私にも多くの気づきをもたらす貴重な一冊です。

在宅医療と精神科

- 在宅療養支援診療所は全国に15,640ヶ所あるが、精神科を標榜しているのは630ヶ所と約4%と限られている。
- 訪問診療を受けている患者のうち93.5%が65歳以上、79%が75歳以上である。¹⁾
- このため、認知症診療は在宅医療において重要項目となっている。

1) 厚生労働省 患者調査の概要 平成26年



医療法人 すずらん会

たろうクリニック

TARO CLINIC

- 福岡市全域およびその近郊で約850名の患者数
- 対象患者の多くは認知症高齢者で、介護保険を利用している
- 強化型在宅療養支援診療所で、看取りを積極的に行っている
- 内科医、外科医と複数科の医師が在職している



通院は拒否するが訪問の受け入れは 良好な方が少なくない理由

- 病識がない方に「病気だから病院に行くように」というと拒否されるが、訪問し「あなたがここで安心して生活できるようにサポートします」と伝えると受け入れやすい。
- 病院受診をするには、予約し、病院ごとに違う診察券を準備し、予約した日に行き、受付や診察前に待たされ、薬の受け取りは院外で、と負担が大きい。



認知症をあきらめない



写真 読売新聞社提供

改善可能な部分を考え続ける

在宅医療、特に認知症診療に おける精神科医の役割

在宅医療における精神科医の役割

1. 認知症の見立てを行う
2. BPSDへの対応を在宅で行う
3. 患者の健康な面へのアプローチ
4. 介護者のサポート

困ったときに相談されて薬を調整する
だけの存在になってしまう、、、

認知症 医療の限界、 ケアの可能性

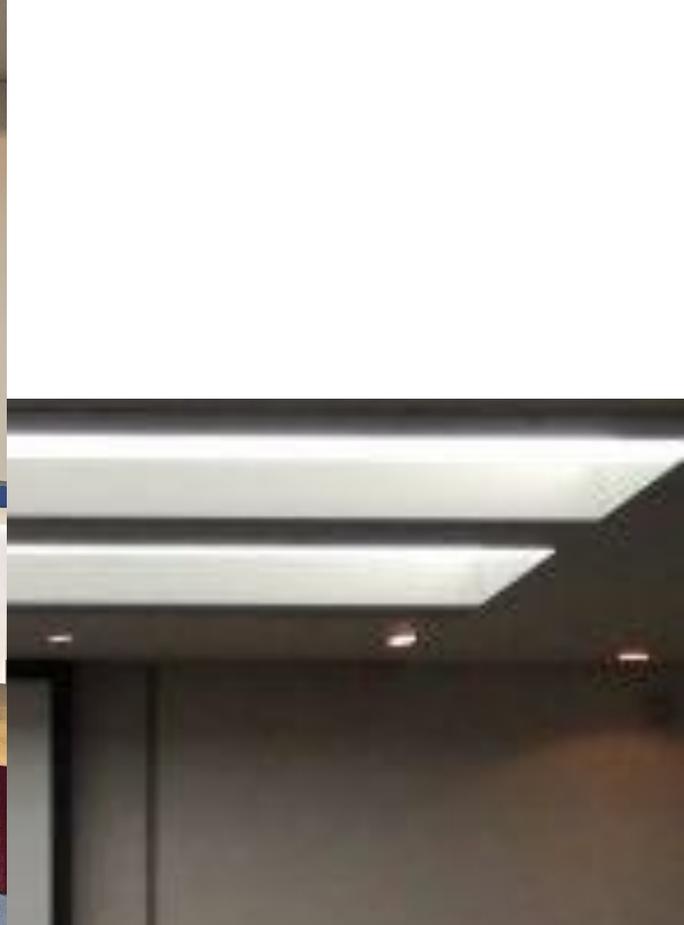
著●上野秀樹
精神科医

訪問精神科医が教える
認知症でも
幸せに暮らす方法!!



MCメディア出版

介護者に認知症
について知って
もらう



上野流認知症見立て塾

認知症 医療の限界、 ケアの可能性

著●上野秀樹
精神科医

訪問精神科医が教える
認知症でも
幸せに暮らす方法!!



MCメディア出版

- ごちゃまぜで認知症の見立てを学ぶ。
- ケースを使ったグループディスカッションで様々な立場の人からそれぞれが学びあう。

みんなの認知症情報学会



[📍 アクセス](#) [✉ お問い合わせ](#) [🔗 関連リンク](#) [👤 学会関係者](#)



[🏠 ホーム](#) [📖 学会について](#) [📄 入会案内](#) [🔧 学会システム](#) [👤 会員向け](#)

認知症は個性です。



そうは言っても対応に困る方がいる、..

見える事例検討会

- マインドマップ*を用いた多職種による事例検討会
- * マインドマップ: イギリスの教育者トニーブザンによって開発された思考・発想法

見える事例検討会の目的

1. 事例の根底にある課題を明らかにする
2. 参加者の援助技術を高める
3. 地域の支援者ネットワークを構築する

毎月第2木曜16時半から開催！



見える事例検討会

第7回

全国フォーラム

THE 7TH
VISIBLE INTELLIGENT CASE CONFERENCE
IN FUKUOKA 2017

テーマ

認知症になっても
住み慣れた場所で過ごせるまちづくり

日時

11 / SAT
2017 25
13:00-17:00

第1部 シンポジウム

シンポジスト

堀田 聡子

慶應義塾大学大学院産業マネジメント研究科 教授

成本 迅

京都府立医科大学大学院医学研究科 教授

八森 淳

つながるクリニック 院長

内田 直樹

たろうクリニック 院長

第2部 見える事例検討会

ファシリテーター

八森 淳

大友 路子 つながるクリニック

事務局 医療法人すずらん会 たろうクリニック

〒813-0043 福岡市東区東島1-1-21 <http://taro-cl.com>

TEL.092-410-3333 FAX.092-410-3332

場 所

福岡市 福岡大学病院

福大メディカルホール

〒814-0180福岡市城南区七隈7-45-1

定員 250名 参加費 無料

参加資格

医療介護に関わる職種の方

大会長 内田 直樹 たろうクリニック 院長

見える事例検討会

第7回

全国フォーラム

THE 7TH
VISIBLE INTELLIGENT CASE CONFERENCE
IN FUKUOKA 2017

DFCとDAAについて学ぶ

第1部 シンポジウム

シンポジスト

堀田 聡子

慶應義塾大学大学院看護学専攻マタニティ研究科 教授

成本 迅

京都府立医科大学大学院看護学専攻 教授

八森 淳

つながるクリニック 院長

内田 直樹

たろうクリニック 院長

第2部 見える事例検討会

ファシリテーター

八森 淳

大友 路子 つながるクリニック

事務局 医療法人すずらん会 たろうクリニック

〒813-0043 福岡市東区東島1-1-21 <http://taro-cl.com>

TEL.092-410-3333 FAX.092-410-3332

期 間

福岡市 福岡大学病院

福大メディカルホール

〒814-0180福岡市城南区七隈7-45-1

定 員 250名 参加費 無料

参加資格

医療介護に関わる職種の方

大会長 内田 直樹 つながるクリニック 院長

福岡認知症フレンドリーシティ宣言



ユマニチュード





知覚・感情・言語による包括的ケア技法

HUMANITUDE Japan

ユマニチュード® 研修案内

digital sensation

☎ 050-6865-2626

受付時間 10:00 ~ 17:00 (土日祝のぞく)

📠 053-415-9990

✉ info@humanitude.care



開催予定・申込

受講案内



イベント

関連商品

講演依頼

アクセス

お問い合わせ

福岡市 (委託事業)

福岡100



平成 29 年度 福岡市
ユマニチュード® 施設導入プログラム
実践者育成 4 日間研修

募集期間

8月 29 日(火) ~ 9月 27 日(水) 17:00 [必着]



人間らしさ 尊重しつづける

「見る」「話す」「触れる」「立つ」 向き合うケア 広がる

「よしさんに会いに来たよ、きょうも笑顔がすてきだね」。2月下旬、福岡市の介護施設「ユマニチュード」の職員、赤松克子さん（38）は重い認知症でうつむいて黙って座る高齢の女性の前にかがみ込み、背中に触れながら目を合わせて話しかけた。

最初はこわばった表情を浮かべていた女性。赤松さんが女性と視線を合わせ、絶えず語りかけ、体に触れながら介助を続けると、表情が緩んでいく。最後には「ありがとう」「さいます」と穏やかな口調で応じるようになった。

「介助の合間にボジティブな言葉をたくさんかけることで、利用者の笑顔が増え、自分たちの仕事の負担も減った」と喜ぶ赤松さん。単に優しく接しただけではない。コミュニケーションが取りにくい認知症のケアとして注目を集める「ユマニチュード」という技術を駆使した成果だ。赤松さんら施設職員は20

17年11月12日に「ユマニチュード」施設導入プログラムに参加。4日間の講習で「見る」「話す」「触れる」「立つ（ことう）人」として大切な4つの柱を支える基本技術やおむつ交換の場面などでの応用を学んだ。

フランスの体育学の専門家、イブ・ジネストさん（64）らが考案したユマニチュードの哲学は「ケアを必要とする人の人間らしさを尊重し続けること」だ。赤松さんは「自分を認めもらう喜びは重度の認知症の高齢者の心にも響く」と効果を実感する。

ジネストさんが認知症でずっと寝たきりだった高齢者を通訳を交えてケアすると、会話を始め、ベッドから車イスに移り、そして支えられて立ち上がる。目の当たりにした施設職員らは「奇跡だ」「魔法みたい」と驚くが、ジネストさんは「奇跡や魔法はなく技術。人は死ぬまで立つて生きられる」と説く。

全日本病院協会は病院職員向けの認知症研修会にユマニチュードを導入し、2月に開催した研修会では来月12日に開かれたのは福岡市で、赤松さんが受けた研修も同市が主催した。

17年11月12日には認知症の高齢者を自宅で介護する家族向けの講習会も開催。講習後3カ月間、自宅にユマニチュードのポイントを広げる「介護のヒント」を毎週郵送して支援したところ、高齢者の認知症の症状も軽減し、介護する家族の負担も減った。

冒頭の介護施設に属する「だろろクリニック」の内務直樹院長も「昼間に施設でケアを受けて落ち着いた状態で帰宅しても、夜中に興奮状態になれば、薬を増やして行動を調整するといった事態になりかねない」と懸念する。

ユマニチュード本
本支部の代表を務め
院機構東京医療セン
京・田思）の総合関
木田美和子さんは一
や介護施設の職員
く、認知症の高齢者
近で長い時間を一級
家族に広めることほ
強調する。

福岡市では18年4
設や家族に加え、一
対象にユマニチュ
に対する講習会を新たに臨
に将来を支える児童
ほか、認知症の高齢
隊にも広める計画を
25年には団体の世
で75歳以上となるか
は世界にもまれな盛
を迎え、認知症も地
市を地域包括ケア推
廣推進課長は「多く
認知症を正しく理解
することが地域社会が
受け入れるためには
と指摘している。



お年寄りと視線を合わせ、体に触れながら接する介護技術「ユマニチュード」を実践する赤松さん（福岡市東区）



在宅医療は効率が悪くなりがち

福岡市「かかりつけ医」機能強化事業の概要

- 福岡市が推進する「福岡100」プロジェクトの一事業
- ICTを活用し「かかりつけ医」機能の強化を図ることを目的
- 2017年4月より市内医療機関の協力のもと、段階的なオンライン診療の導入と有用性の検証を実施.

WG運営委員

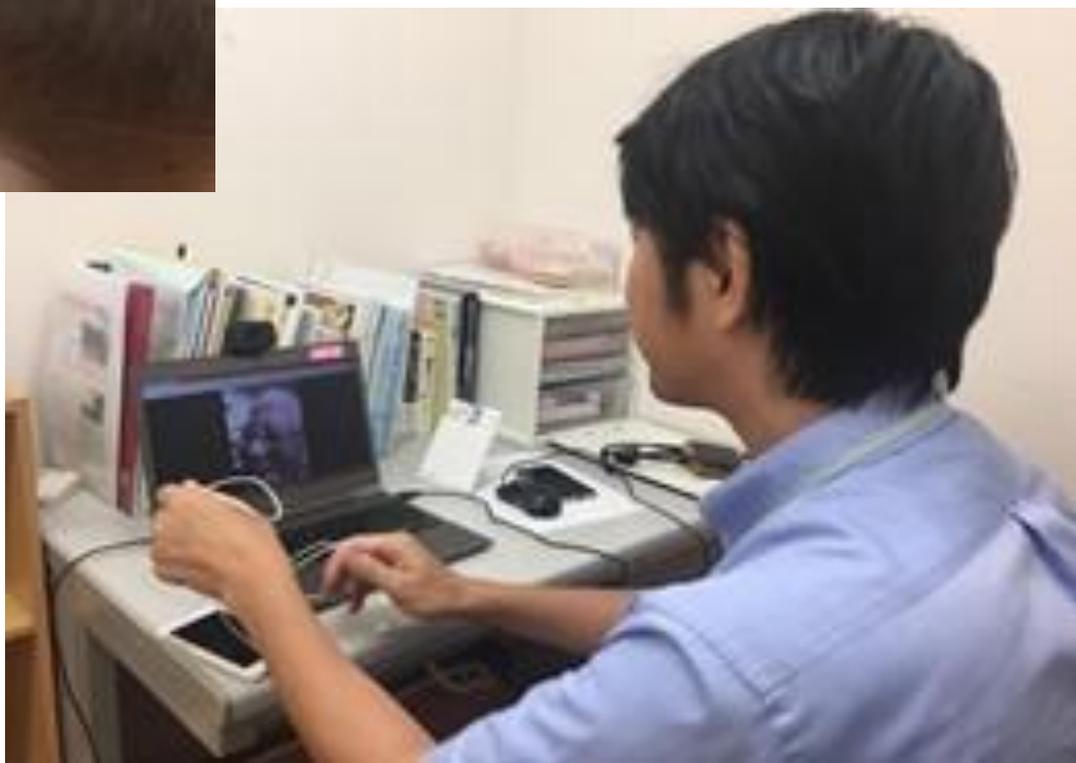
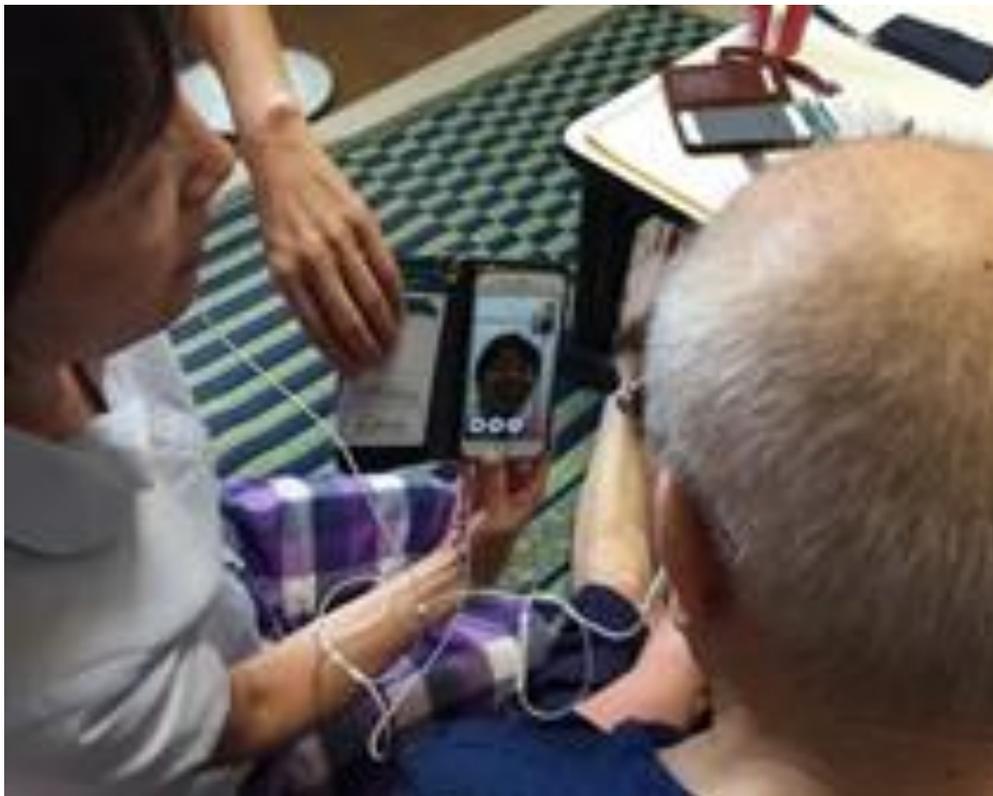
(事務局)

オブザーバー

システム協力



症例



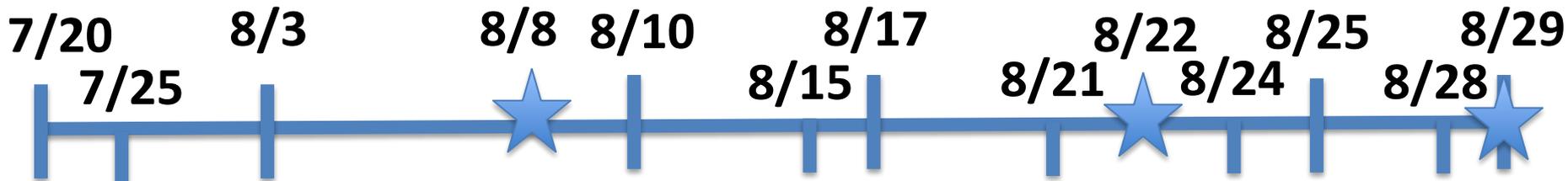
- 症例：A氏 86歳 男性
- 診断：中等度アルツハイマー型認知症
悪性リンパ腫（2015年）
糖尿病

- 病歴

もともと夫婦で佐世保で過ごしていたが、夫婦ともに認知症が進行したため2016年3月から福岡に住む娘がひきとり同居することとなった。これに伴い9月に当院初診

訪問経過

2017年



17:13 臨時往診

看取り 死因は悪性リンパ腫

息子も立ち会うことができた

娘より、今後母のもの忘れ外来通院とオンライン診療の希望があった

介護者からのコメント

- 「(オンライン診療について)たまたまテレビで観てて関心はあったけど、どんなものか不安はあった」
- 「最初は、診察って感じになるのかなって思ってたけど、実際は外来を通じて信頼関係がある中でのオンラインだったので、オンラインでも診察室での診察とあまり変わらなかった」

介護者からのコメント

(父の在宅ケースについて)

- 「皮膚を見てもらったり、動画でタイムリーにみてもらって相談できて、ここに先生がいなくても診察してもらえるっていうのはありがたかった」
- 「日に日に、半日単位で状態が変わるからこそ、オンラインが良かった」

その後、、

- 娘さんから依頼があり、A氏の奥さんに、もの忘れ外来とオンライン診療を併用。
- 3ヶ月に一回対面で、間の二回をオンラインでつなぐ形。
- 娘さんは仕事を開始。現在もフォローしている。

介護者からのコメント

(母の外来ケースについて)

- 「先生が画面に映るたびに(母が)緊張する。まるで診察室にいるときみたいで。そういう意味でも距離を感じてなくて実際の診察に近いんだなと感じた」
- 「家にいるので生活の困りごとを思い出しやすい」

オンライン診療のメリット

- 移動の時間がかからない
- オンライン診療のおかげで臨時往診に行くかどうかの判断がしやすかった
- 皮膚の状態や痙攣など、オンラインで見ることによって判断ができた
- 顔を見ながら話せるので患者・家族の安心につながった

オンライン診察：主なケースと期待される効用

ケース1 外来診療 (勤労者)	ケース2 外来診療 (高齢者)	ケース3 在宅医療
仕事等により、 受診機会が持てず 重症化しやすい	心身虚弱により、 本人・介護者の負荷が 高く治療から 脱落しやすい (在宅医療へ移行前)	自力通院は不可で、 急変対応など介護者や医 師の負担が高い
患者の負担軽減	介護者の負担軽減	医師・介護者の 負担軽減
治療からの脱落防止	早期対応(重症化予防)	早期対応 (患者・家族の安心)

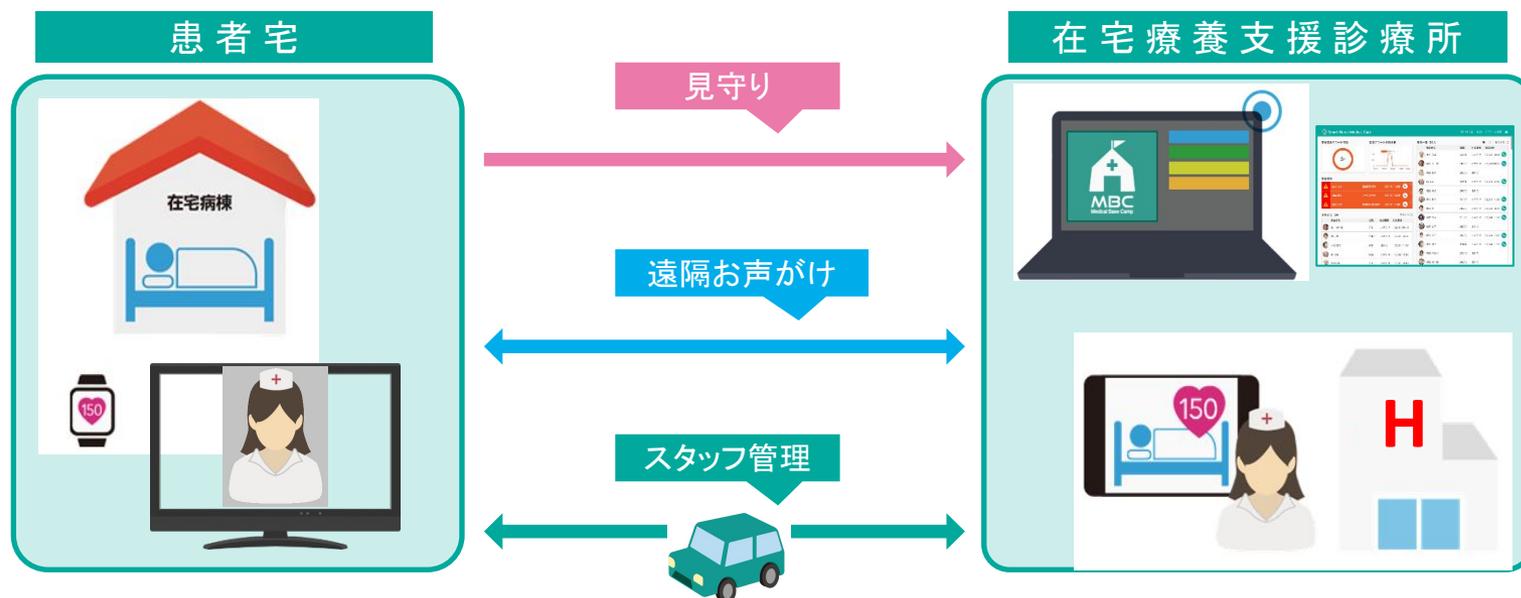
かかりつけ医を受診される患者のうち、
オンライン診療の有用性は大きく3つに大別された

オンライン診療のデメリット

- 基本的な信頼関係が必要
- 対面診察を完全に代替はできない
- 診療報酬の問題
- スマートフォンを使い慣れていないと難しい

Smart Home Medical Careとは

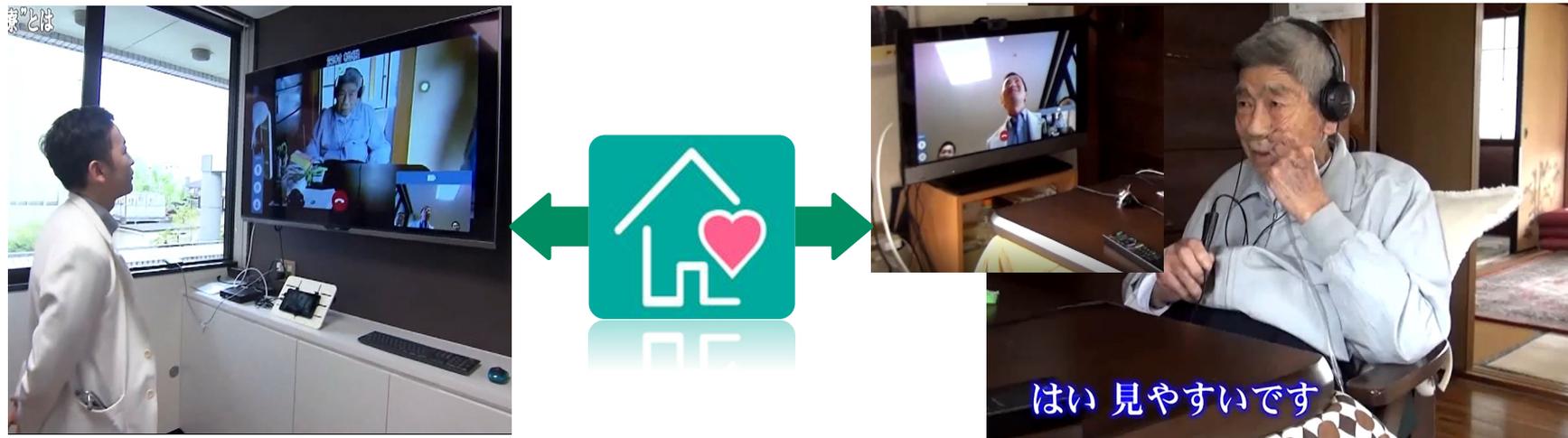
- Smart Home Medical Careとは在宅医療をご提供する医療機関様や在宅療養を進める患者様をITで支援するクラウドサービスです。
- AI・IoTを活用して在宅医療に病院のベッドと同じような見守り環境をご提供します。



OPTiM

Smart Home Medical Careの特徴1 自宅のテレビでビデオ通話

- ビデオ通話用の端末に患者宅のテレビを採用。タブレットが苦手な高齢患者様にも馴染みやすいシステムです。



タブレットの課題



- 画面や音量が小さい
- 操作が複雑、タッチパネルに慣れない



- ✓ 医療機関様から通話を発信すると **自動で患者宅のテレビが反応、患者様の操作無しにビデオ通話**が開始できます。
- ✓ **大きな画面と音量で目や耳の悪い患者様でもお医者様と自然に会話**できます。



OPTiM

Smart Home Medical Care

5月 金曜

NHKG 午後7時30分～午後7時55分

31日

実感ドドド！「高齢者の“在宅”が変わる ～ICT医療・介護の最前線～」



自宅で医療・介護が必要となる人や、ひとり暮らしの高齢者が増え続けるなか、注目されているのが“ICT=情報通信技術”の活用だ。九州・沖縄でも、医師と患者がテレビ電話などでつながる「オンライン診療」が本格化。自宅にいる高齢者の心機能などのデータを看護師が24時間確認し、異変を察知したらすぐに医療機関や家族に伝える見守りサービスも始まった。在宅での医療や介護はどう変わるのか、最前線の動きを伝える。

【キャスター】魚住優、【出演】荒木由美子、【出演】長谷川高志

福岡 熊本 鹿児島 大分
佐賀 長崎 宮崎 沖縄

5月31日 19:30-
6月1日 7:35-

コモモンと

は？
認知症介護をする介護施設、医療機関、家族
のアシスタントロボットです！



認知症対話AI搭載
発話時に動く
ぬいぐるみ型ロボッ
ト

平成30年

日時 **11月3日・4日**

会場 **なみきスクエア**

福岡市東区千早4-21-5
TEL092-674-3981

テーマ/ **Nothing About Us Without Us**
私たちのことを私たち抜きに決めないで
～当事者参加型の介護・福祉・医療を語ろう～

大会長/実行委員長 伊藤大樹(あおばクリニック)

第9回九州在宅 検索

平成30年
11/3
土

- ◆14:00 開場 14:45 開演
- ◆シンポジウム
「認知症フレンドリーな
まちづくりに向けて語ろう」
丹野 智文さん(おれんじドア実行委員会 代表)
高橋 英二さん(デイサービス春の音 代表)
笠井 浩一さん(福岡市認知症支援課 課長)
- ◆18:30～20:30 懇談会
(会場:ホテル日航福岡)

平成30年
11/4
日

- ◆9:00 開場 9:30 開演
- ◆「成熟市民社会オランダに学ぶ～福祉における
自立的選択と自立的当事者意識を育む教育～」
講師 リヒテルズ直子先生
(オランダ教育・社会事情研究者)
- ◆「当事者抜きの医療にならないために」
講師 浜満 辰二先生
(大阪大学文学部 臨床哲学研究室 名誉教授)
- ◆シンポジウム:各県からの発表

平成30年

日時

11月3日・4日

会場

なみきスクエア

福岡市東区千早4-21-5
TEL092-674-3981

テーマ/ **Nothing About Us Without Us**
私たちのことを私たち抜きに決めないで

コミュニティの重要性について考え、
地域の取り組みを行っていく必要性について考える

11/3
土

◆シンポジウム

「認知症フレンドリーな
まちづくりに向けて語ろう」

丹野 智文さん(おれんじドア実行委員会 代表)

高橋 英二さん(デイサービス春の音 代表)

笠井 浩一さん(福岡市認知症支援課長)

◆18:30～20:30 懇談会

(会場:ホテル日航福岡)

11/4
日

◆「福岡市民社会オランダに学ぶ～福祉における
自立的選択と自立的当事者意識を育む教育～」

講師 リヒテルズ 直子先生

(オランダ教育・社会事情研究者)

◆「当事者抜きの医療にならないために」

講師 浜満 辰二先生

(大阪大学文学部 臨床哲学研究室 名誉教授)

◆シンポジウム:各県からの発表



オークタウン









六本松廣橋亭

長澤 祐子



健康・文化・美・食・音楽・心

Motoshi Nagasawa



六本松廣橋亭

長澤 祐子



健康・文化

Yuko

健康・文化・美・食・音楽・心

地域に貢献し親しみをもたれていた廣橋先生の遺された
家やお庭を地域の皆様が開かれた場所として
活用できるようにするプロジェクトが「コミュニティサロン六本松廣橋亭」です。
人生100年、あなたの元気をキープできる第三の居場所
サードプレイスとしてご利用ください。
健康相談、文化セミナー、美・食・音など心癒す企画を提供できる場所です。

コミュニティサロン 六本松廣橋亭

COMMUNITY SALON ROPPONMATSU HIRASHIBASHI TEI



コミュニティサロン六本松廣橋亭
〒100-0033 東京都中央区新富町1丁目17番-38 Tel.03-666-6666 Fax.03-666-6666 e-mail:chymaka1997@gmail.com

福岡市認知症ライフサポーターカー

認知症フレンドリーシティ・プロジェクトにおいて、認知症の人やその家族が地域の中でつながりが保持され、いきいきと生活ができる認知症の人にやさしいまちを目指し、認知症とともに生きる人のよき伴走者となり、地域の中で活躍できる人材(認知症ライフサポーターカー)を養成します。

認知症の人の望む暮らしを実現できるよう、当事者に寄り添い、思いに共感的理解を示すことで(1)当事者の声を代弁し(2)当事者の思いをかなえるための環境改善、地域へ働きかけを行う役割を担います。



九州の経済界の若きリーダー達と福岡版DAA
についての取り組みを加速させていく



人財の森をつくる。

特定非営利活動法人

九州・アジア経営塾

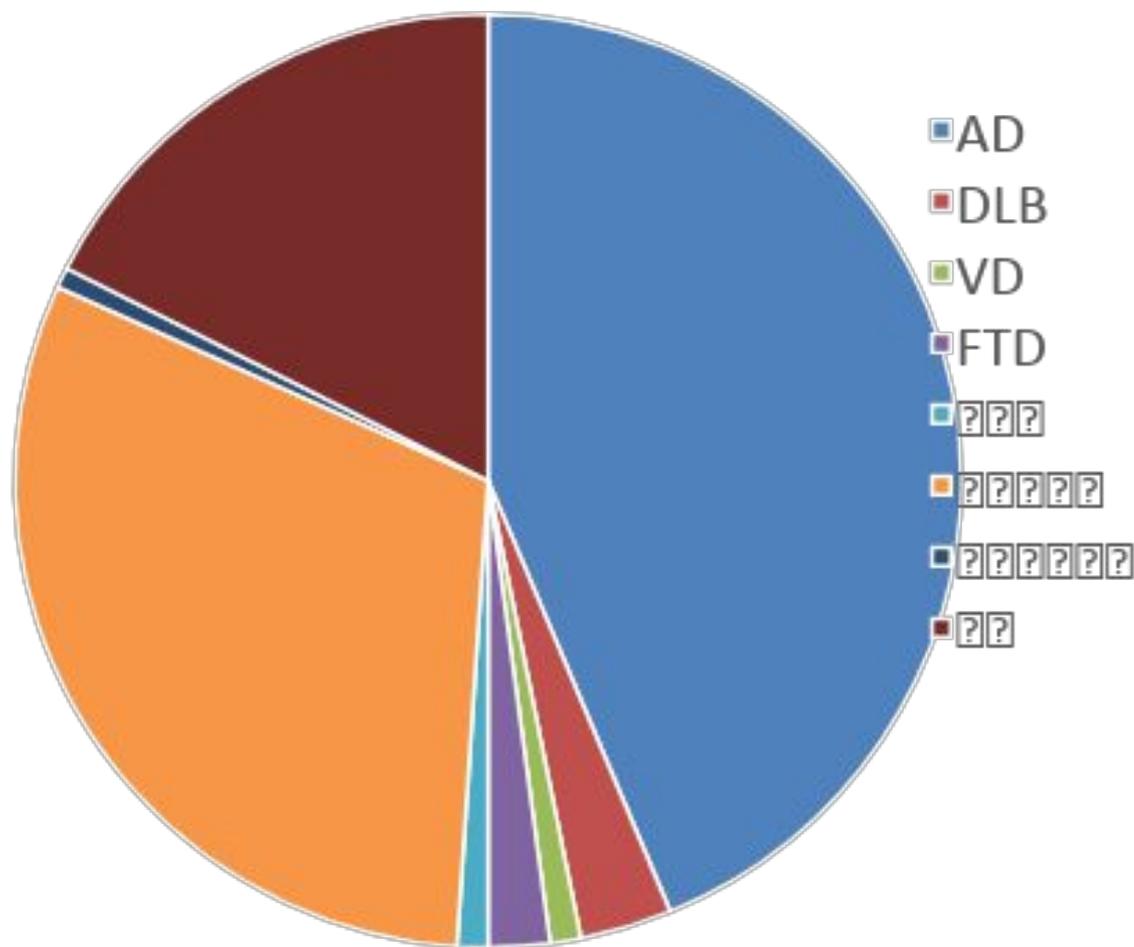
THE KYUSHU-ASIA INSTITUTE OF LEADERSHIP

〒830-0004 福岡市中央区渡辺通2-1-82 電気ビル共創館7階

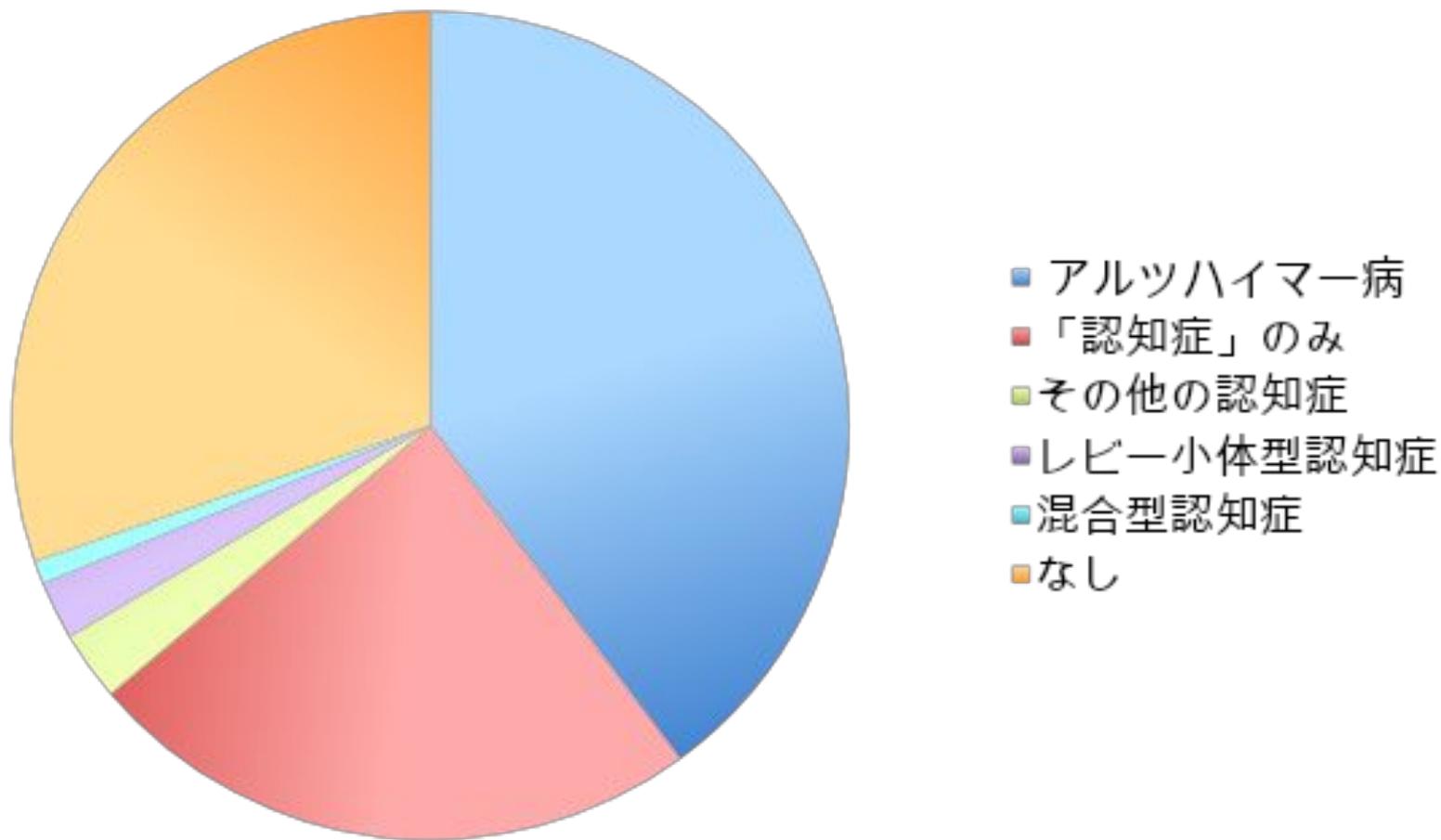
TEL:092-726-1861 FAX:092-726-1860

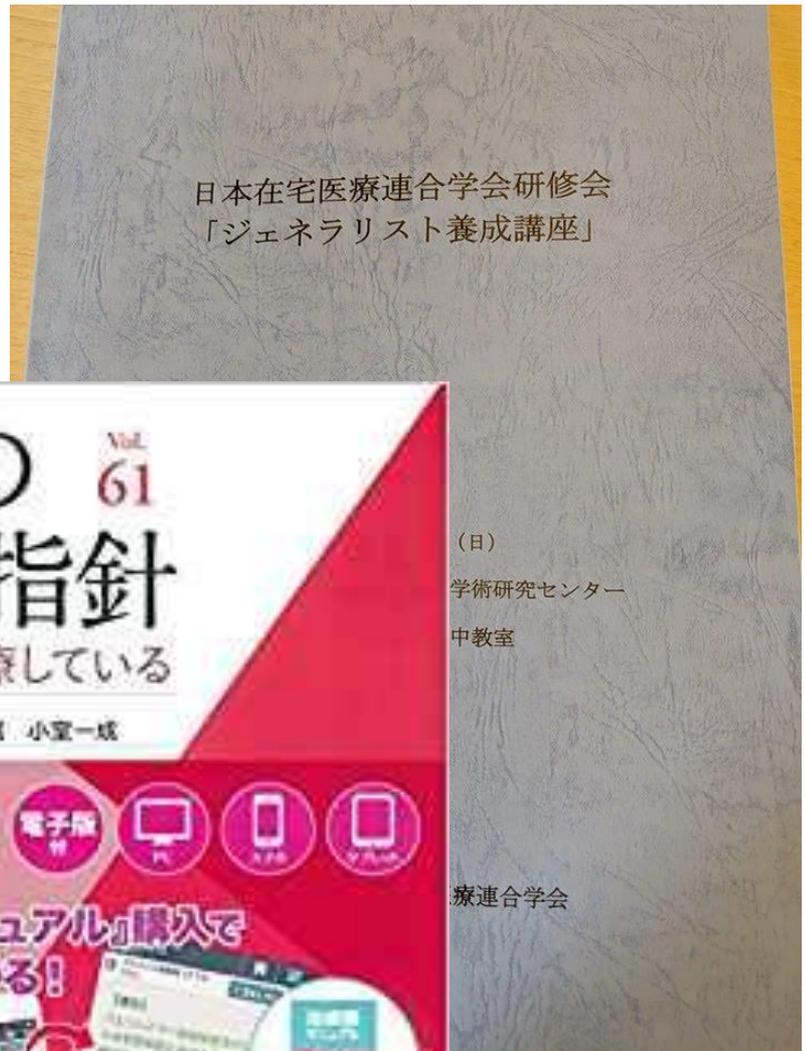
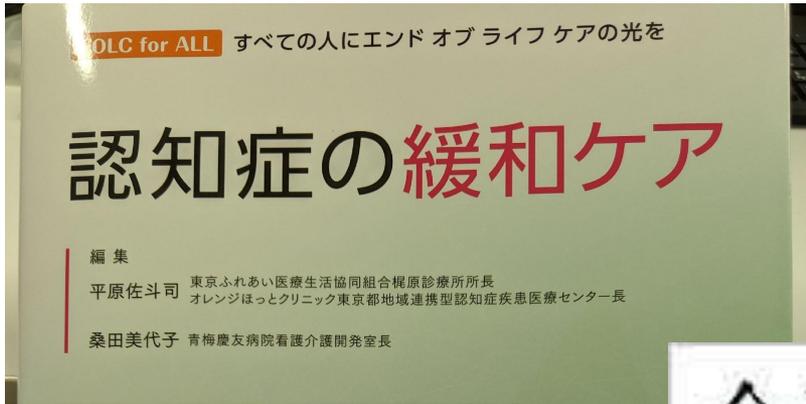
E-mail: info@kail.jp URL: <http://www.kail.jp/>

2017年度 前医認知症診断 (282例)



2016年度 前医認知症診断 (215例)





在宅耳鼻咽喉科



嚥下障害、難聴と耳鼻咽喉科疾患を抱える高齢者は
在宅に多いが耳鼻咽喉科医は少ない



在宅医療を 当たり前前の選択肢に！

認知症や精神疾患のある人にとって在宅医療を当
たり前の選択肢に、
精神科医のキャリアにおいて在宅医療を当たり前前の
選択肢に





2019年度
九州・沖縄
ブロック大会

▶ 開催概要

▶ プログラム

▶ 演題登録

▶ 参加申込

▶ 会場アクセス



認知症とともに
よりよく生きる未来に向けて

ケア再考

2019年度日本認知症ケア学会
九州・沖縄ブロック大会

2019 11.9
アクロス福岡

2019年度より地域大会は「ブロック大会」に名称変更いたします。

開催概要

会期	2019年11月9日（土）10：00～16：25
会場	アクロス福岡（福岡県福岡市中央区天神1-1-1）
大会長	内田 直樹（たろうクリニック）
テーマ	ケア再考；認知症とともによりよく生きる未来に向けて
定員	1,200名（サテライト会場（300人）含む） *定員を超えた場合、参加を制限することがございます。
専門士単位	7単位（発表 +3単位）